

## 博士課程教育リーディングプログラム現地視察報告書(平成25年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

プログラム名称	熱帯病・新興感染症制御グローバルリーダー育成プログラム	申請大学名	長崎大学
申請大学長名	片峰 茂		
プログラム責任者	調 漸		
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当初計画に沿って着実に実施されており、全体的に初年度としては順調な進捗である。また、学長のリーダーシップの下、意欲的に取り組んでおり、全学を挙げてプログラムを成功させようという意気込みが感じられる。</li> <li>・新たに採用した専任教員スタッフと呼ばれる4名の教員団が、履修学生のグループディスカッションにおけるファシリテーターや個別のレポート指導といった学習ガイドを行うなど、独自性のある教育が行われている。</li> <li>・履修学生9名中2名が日本人学生で、7名が留学生という特筆すべき構成で、グローバルリーダーを育てるには良好な環境だと考えられる。なお、募集定員は15名であり、残り6名については、秋入学で選抜予定である。</li> <li>・一方で、4月に1期生を迎え入れたばかりということもあるが、メンターがまだ決まっていない学生がいるなど、支援環境に不十分な部分も見られる。</li> </ul> <p>2. 意見(改善を要する点、実施した助言等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本プログラムに採択された全ての大学にも言える課題と思われるが、研究成果と共に、リーディングプログラムの人材育成成果をいかに両立させて達成するかが課題となる。具体的には、プログラムの学生は、所属専攻の研究室の一員であるとともにリーディングプログラムの履修学生でもある立場を、それぞれの教員が理解し、大学全体でどのように支援・解決していくかを考えて頂きたい。</li> <li>・プログラムの学生は、春の履修開始から間もないこともあるかもしれないが、広く産学官に渡り活躍できるグローバルリーダーを養成するというこのプログラムの趣旨を十分に理解していない印象があった。履修希望者も含め、広く学生に趣旨を理解してもらうよう徹底するべきである。</li> <li>・プログラムに関する全ての授業が英語で行われているが、一部の学生の英語力に関しては、まだ十分ではない印象を受けた。特に留学生と日本人学生には、英語力に大きな差があるため、今後は、英語力が低い学生へのフォローが望まれる。</li> <li>・感染症は重要な研究分野であるものの、研究者は国際的に見ても多いとは言えないため、全国の感染症の研究者の力も活用しつつ、長崎大学が国際的にも感染症研究の中心拠点の一つであることを国内外に知らしめるような高い志を持って学生を育てるプログラムにして欲しい。</li> <li>・本プログラムを修了した留学生が、日本で学位を取ることのみを目標とするのではなく、グローバルに活躍する人材になるよう、留学生のキャリアパスのサポートも必要である。</li> <li>・熱帯病や感染症といった研究は、産業界へのキャリアパスが難しい分野である。製薬企業の関係者にステークホルダー会議への参加やメンターを依頼するなど、努力が見られるが、産業界を含め個性のあるキャリアパスの設定が求められる。</li> </ul>			

- ・メンターは各学生の動機と素養に適した幅広い年代や専門から選任し、キャリアパス構築などの成長過程を成否を問わず記録して、本プログラムの目的である独自の人材育成プログラム構築に向けたマイルストーンを明示して推進することが望まれる。
- ・リーダーシップ資質を高めるには、現場観察力、洞察力、コミュニケーション力の整合が大切であり、失敗を含む経験を俯瞰的な仮説モデル構築に活かして現場課題抽出能力を高め、説得力のあるソリューションを発案する能力を養う施策が望まれる。